

みんな みんな

新年特別号

2003年 1月10日 Vol. 31

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター 事務局通信

理事就任にあたって

私の社会活動の基盤が、ここ11年間は青年会議所(JC)でしたので、国内外の会議を合わせて、年間100回。活動内容も、教育・経済・環境・国際・文化等なんでもござれ。自称・地域づくり、まちづくり、お祭りのエキスパート。NPOという言葉が日本中を駆け巡り始めると、日本最大のNPOであり、先輩格として、MSO(マネジメント・サポート・オーガニゼーション)の役割を担っていかうなどと、声高に虚勢をはって見たものの、「ご専門は?」「継続性は?」と問われると下をうつむくこと多数...。井の中の蛙となったり、自信喪失になったりという矢先の理事就任でした。

先日、評議員会・理事会に出席して、大きな刺激の数々。一つひとつの発言には、それぞれの団体の信念が貫き通され、実践と継続が成せる強さを感じました。いま、日本が大きく変わろうとしているとき、大きな力となるのは、私たち市民であることは、誰もが確信していることだと思います。市民といっても、いろんなカテゴリーに分けられますし、重なっている人もたくさんいます。そんな中で、NPOはその市民をつないだり、育てたりする大切な役目を担っていくものであると思います。

そんな大切な役目を担っているNPOを支えるせんだい・みやぎNPOセンターの理事は重責です。5年間の軌跡をたどると、社会を変える仕組み創りを着々となされているのがわかります。その流れを止めずに、小さな流れを大きなうねりに、ひとり一人の思い、一つひとつの力を集めれば、出来ないことはない信じ、一緒に社会を変えていく運動に参加できることをうれしく思いながら、活動させていただきます。

せんだい・みやぎNPOセンター理事 横山 英子

内容

せ・みセンタースタッフのキモチ大解剖
当センターと関わり感じたこと・期待すること
はみだしエッセイ、部会報告
BOOK、事務局活動報告 ほか



せんだい・みやぎNPOセンタースタッフとして

どう働く・どう動く2003年！スタッフのキモチ大解剖！

新年あけましておめでとうございます！せんだい・みやぎNPOセンターはおかげさまで5度目のお正月を迎えることができました。世の中は何かと物騒であったり元気がなかったりしておりますが、私たちスタッフはそれぞれの胸に希望と志を抱きつつ（！！）パワー全開で仕事の山に突入しております...って、本当かどうかお疑いの方もいるとかいないとか。それなら直接スタッフに今年の抱負や目標、NPOで働くということをどう考えているか聞いてしまおう！ということで現場スタッフと理事による異色対談がここに実現！普段は聞けないアノ人やコノ人の胸の内をご覧ください。

◆出席者

司会・文責：工藤 寛之

- ：黒澤 学 （理事、6年目）
- ：青木 ユカリ（事務局次長、仙台市市民活動サポートセンターセンター長、勤続6年目）
- ：中津 涼子（仙台市市民活動サポートセンター管理運営担当・「ばれっと」編集長、勤続4年目）
- ：畠山 未津留（仙台市市民活動サポートセンター管理運営担当、勤続1年目）

●さて、せんだい・みやぎNPOセンターの一員として迎える2003年、みなさんがスタッフとして実現したい目標やテーマとはどんなものでしょう？

◆今年「情報提供」と「人材の循環」に注目◆

畠山：私は仙台市市民活動サポートセンター（以下SC）の利用者から寄せられるニーズ（相談や情報提供）に対して、機敏に反応できるようになりたいですね。レスポンスの良い窓口スタッフになる、というのが今年のテーマです。昨年、私は“NPOデビュー”を果たしたわけですが、このごろになってようやく、私が利用者に提供した情報やアドバイスが手応えとなって返ってくるようになりました。これが、この仕事の面白味なんだと感じています。

中津：私は、SCが蓄積した膨大なNPO情報を、

もっと市民が活用できるような仕組みに整えていくことをテーマにしたいですね。そのためには、情報を伝える相手は一体誰なのかを常に自分自身がしっかり意識しなければなりません。SCのユーザーは誰なのかを考えた時、今までは、SCの来館者とそうでない「一般市民」というように考えていましたが、でも、果たして「一般市民」って一体誰なんだろう？と。その相手の顔が見えるところまで対象を絞らないと、その人が本当に求めている情報を提供することはできないな、と。

青木：私としては、まず、中間支援に携わっていく人たちを育てていく仕組みを作りたいですね。昨年から現スタッフを対象とした研修システムの構築に取り組んでいますが、最終的には、これを私たちの組織内にとどまらない「人材循環システム」への第1歩に繋げたいという希望があります。次の市民セクターをリードしていく人材を育てることも、今私たちが社会から求められている役割でしようから。今まで私たちが手にしてきた成果

と、これから必要となるスキルやノウハウの創出という2つのスタンスを両立させながら、中間支援組織の専門的スキルやノウハウの提供と分配をスピーディーに他の組織に供給できるようになるといいですね。

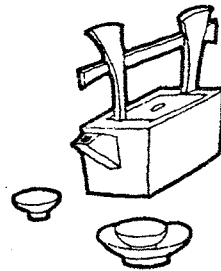
黒澤：2003年を考える上で、私には取り組むべき重要なテーマが4つあります。

まずは人材育成。青木さんも指摘したとおり、私たちの組織にとってどれだけ有用な人材を育てるかということと、NPOや社会全体を支えていく人材をどのように育てるか、という2つの側面があります。となると、やはり人材の「育成と放出」が創り出す人材の循環を仕掛けることも大切な仕事なのでしょう。

2つめは、NPOと企業の協働促進。これまで協働というと「官民」が重視されてきましたが、企業と官の経済規模を比較すれば企業の経済規模の方が大きいのは明らかであり、NPOセクターの経済的基盤を確立するには、今後はNPOと企業の協働促進が大きなテーマになります。

3つ目は、地域との連携。特に「町内会」などの地縁系組織とのつながりが注目されるでしょう。NPOが地域課題における特定分野のスペシャリストであるとするならば、町内会というのは地域課題のゼネラリスト。これから「団塊の世代」が地域に還流していくことを考えると、その受け皿たる地域の地縁組織に期待される役割はさらに重くなってくる。そこで発生する課題に対し、各町内会単位で独自にNPOとの連携が生まれてきてもいいはずではないでしょうか。

4つには、NPOと弁護士・会計士など専門家集団との関係強化。こうした人たちとの連携は、NPOにとって頼れるセーフティネットの構築につながるかもしれません。2002年、宮城ではNPOの事業の違法性を問われる事件がありました。法的・制度的な知識を有する専門家のアドバイスがあれば、こうした事態を未然に防いだり、また、防げないとしてもそこで受けるダメージ軽減や、フォローが可能になると考えます。とかくNPOというのは、思いが先行にして事業化するあまりくいつのまにか違法行為となっていたりすることもあるので…。これを冷静に指摘してくれる人たちの存在は、これから必要になってきます。



◆目標管理が達成感を生む◆

●「情報提供」のあり方や「人材育成」、特に「人材の循環」という新しい言葉が出ましたね。では、そうした目標やテーマを実現するために、みなさんはどのような姿勢でこの1年、仕事に取り組んでいこうと考えていますか？

青木：私の場合は、自分の仕事の中に、小さな目標をいくつか選んで、それをコツコツとクリアできるようにしていこうかなと。つまり、仕事を続けながら、達成感も維持できるようにするという事です。このくり返して、やがて全体として大きな目標の達成にたどり着く。適切な仕事上の目標を自分で考える力がないと疲れるばかりです。

畠山：私も同じですね。小さな目標を自分に課して、それを地道に果たしていくようにしたいと考えています。でも、まだキャリアの浅い私の場合、これをプライベートな時間でも続けていけないといけなかな、と思います。単純に仕事に関する知識を増やすだけでなく、それ以外のコミュニケーション能力や状況判断のための力もつけてゆく。そうした人としての総合力が、実際の仕事の基礎体力になると考えていますから、そのためのトレーニングを常に心がけて窓口業務に臨もうと思います。

◆責任と役割の自覚◆

中津：自分の仕事の「責任と役割」を常に意識することを心がけるようにしていきます。責任と役割を一緒に混在して考えていると、仕事の中身も雑になったり、混乱してきますから。まず責任をはっきりさせてから、具体的な仕事の

中身や対象を把握して自分のできること、すべきことを冷静に見つけていきたいです。

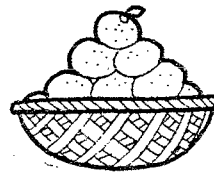
黒澤：理事の第一の役割は、組織の運営方針を立てることです。そして有給の理事が組織マネジメントの役割も果たすことで、その上で有給スタッフの役割とは、それらを現場で実行し、成果に変えていくこと。理事会の停滞が組織の停滞につながるというのはそうした考えによるものです。私としては、いかにして理事会を活性化させ続けていくかに取り組んでいきたい。その第1歩として、限られた時間の中で当センターに関わらざるを得ないので時間の確保を目標としたい。つまり、理事会にしっかり出席できるように努力する（笑）。もう一つは、せんだい・みやぎNPOセンターだけではなくて、他のNPO...つまり、個別テーマで活動するNPOの活動にも関わっていかうと考えています。組織外部の元気を組織内部に投入するのも理事の大切な役割ですから、こうした取り組みも大切でしょう。

●「目標の管理」についても「責任と役割」というテーマについても、それぞれにスタッフが主体的に考えて動かないと果たせないことばかりですね。では最後に、せんだい・みやぎNPOセンターにこだわらず、中間支援の仕事一般に求められる能力や姿勢とはどういうものだと考えていますか？

◆さまざまな“バランス感覚”と“フットワーク”◆

青木：一番重要なのは「バランス感覚」だと思いますね。中間支援の仕事って文字通り、さまざまなセクターや組織の間に立って新たな関係を築いていきます。その中で、冷静・客観の視点を持つことは必要だと思います。もう一つは大事なものはフットワークの軽さ。机にかじりついて勉強だけしていてもプロジェクトや事業は進みません。さまざまな人との出会いや世の中の動きに対してオープンな姿勢を保ち、どんな仕事にもチャレンジして飛び込んでいけることが必要です。フットワークがネットワークを作る！...あと必要なのは、体力かな。

黒澤：私もフットワークの軽さは大切だと思います。こうした現場では、「ニーズに対する先見性」を持つことが欠かせませんが、現時点でそれを本やテキストで学び取る事は無理。中間支援という仕事自体まだ生まれただけなのですから、現場で揉まれながら自分の物にしていくたくましさがないと何もできない。



中津：1年目は、「SCスタッフとしてどうするか？」という意識が強かったのですが、いまではあらためて「せ・みスタッフとしてどうするか？」という意識が強くなっています。と言うのも、SCの仕事だけでは、中間支援組織の果たす仕事として足りないことに気付いたんですね。行政・企業の間立つことが中間支援の仕事の基本的なスタンスとなる訳ですが、そこで行うべき仕事が行政の施設としてやるべきものか、それとも、完全に民間の立場でやるべきなのかを判断していかないとまずいと思います。それを見極める力が今後ますます求められるのではないかと思います。そうした判断ができた上で、さまざまな立場の市民の出会いをコーディネートしていく、つなげていくという力が生きてくると思います。

島山：中間支援という言葉って、まだ広く理解されている言葉ではありませんね。その分、せ・みの仕事自体、中間支援組織という仕事そのものの登竜門みたいなもので、中間支援がいったい地域に対して何をもちたしてくるのか、その認知を生み出すことから始めないといけないでしょう。そのためには、とにかく広く他人からの信頼感や安心感を得られる人材であることが必要だと思います。どんな相談が来てもちり受けとめてやる！という気概を維持しないと、行政で言われる「たらい回し」のくり返しになってしまいます。

(終)

2002年を振り返り
そして2003年へ
当センターへのメッセージ
&
活動近況報告

「2003年に向けて」

河北新報社報道部記者 阿曾恵さん

「設立五周年記念イベント」「サポート資源提供システム本格稼働」などなど、昨年は「これでもか！」のフルコースメニューに目を見張りました。

NPO法施行から四年。ますます隆盛のNPO界ですが、半面、団体が増えれば増えるほど「非営利」「社会貢献」などの従来の性格付けが怪しくなります。世間の無邪気な誤解につけ込もうとする不逞の輩も少なくありません。

今、各NPOに求められているのは、悪質な「なんちゃってNPO」におびやかされないだけの評価を、実践によって確立することでしょう。

中間支援組織の貴センターには、まっとうなNPOがさらに伸び、社会に増えるための仕掛けづくりを一層進めてほしいと思います。

「経済不況とNPO支援」

高清水ソフトウェアカンパニー

代表 兵藤博行さん

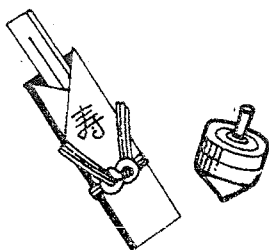
NPOという言葉が一般の人々にもなじんできているように感じるこの頃です。せんだい・みやぎNPOセンターの設立以前から宮城県のNPOの推進のためのアクションに関わった一人として本当に嬉しい事だと思っています。

国や県のNPOに対する支援・促進のための法令化が進み、各県に行政やNPOによる中間支援センターの設立が行われている中、日本全体の経済不況の影がNPOの支援にも大きく影響を及ぼしています。

NPOが行政に望むことの中で、財政の支援が大きなウェイトを占めていますが、宮城県に置いてもNPO対策の関連予算の減額が目立ち始めています。NPOとして行政に対して今まで以上の支援を望んでも、非常に厳しいのが現実です。市民のニーズに応えることで成り立つのがNPOではありますが、経済不況の中で、今まで以上にNPOが自立し、より市民ニーズに答えて行くことは必ずしも楽なことではありません。

このような時代を乗り越える力をNPOは本来持っているものと考えられますが、NPOの支援のための法の整備がなされた頃とは状況に大きな変化があります。

それぞれのNPOやNPOを支援する目的で設立されたNPOがより時代を把握し、戦略的に将来目標をかけた、足もとを固めながら市民のニーズに応える努力を堅実に続けることがより要求されているものと考えられます。



※次ページへ続く



「2003年の課題」

特定非営利活動法人ゆうあんどあい
理事長 渡辺祥子さん

昨年のはじめは福祉系NPO団体にとって、戸惑いと若干の自信喪失とが日常活動の中で交錯した厳しい日々でした。ミッションの確認と振り返りを行うだけではなく、福祉系NPOに求められる福祉の理念と専門性と同時にもっと根源的な人間性についてつきつけられました。

NPOがミッションを大事にし、人を人として認め合い支えあいを地域福祉という視点で実践してきたからこそ、そこが大きく逸脱してしまった事実を知った時の運営の不安は大きいものでした。そして、自分たちの頭が真っ白になってしまう現実自分たちの基盤の脆弱さを改めて思い知らされました。日々に追われ日常に埋没していくことの怖さを自覚できた時に、今問われていることを課題として整理・点検・実行できるかがNPOとして意義を持って存続できるか大きな別れ道かと思えます。

そういう中で、一団体の活動が一団体のみに帰結するはずはなく、ネットワーク活動や中間支援組織の存在感が大きくクローズアップされ、期待感が高まりました。今後、緊急性にどれだけスムーズに対応でき、信頼と連携、情報の速報性が地域ネットのもう一つの核として機能し、今回経験したことが定着できればと思います。

「関わって感じたこと」

(株)ベネッセコーポレーション 東北支社
河部 信義さん

①サポート資源提供システムでの活動を通してのセンターとのつながりの年でした。NPOとの関係の中で、入口・出口をおさえられるセンターの存在というのは、必ず社会に必要とされていると感じました。

②サポート資源や人財のワーキングを通しての交流や接点が得られました。

こちら側に必要で、でも持ち合わせていない情報やルートを持っている強み。これこそが、企業側から見たNPOセンターの存在でしょう。

そして、2003年に期待するのは、よりNPOと企業の距離縮めていくこと。企業としては、NPOセンターの協力をいただきながら、NPOとの協業を実現できれば、と。更なる幅広くかつ、きめ細やかな活動に期待しています！

「2003年に期待すること」

市民フォーラム21・NPOセンター
事務局次長 石井伸弘さん

私たちもせんだい・みやぎと同じく、1997年11月に発足しました。同じ時期に、ほとんど同じ理念を掲げてスタートしましたが、5年たった今、方向性も、性格もずいぶん異なるものになったと感じています。しかし、日本で最初というモデルを発信し続けてきたせんだい・みやぎの活動には常に注目してきました。

初の公設民営のNPO支援センター、サポート資源開発プロジェクトなど、単に一過性の事業とするだけではなく、地域に仕組みを作るところまでを見据えた活動を、私たちもモデルにしたいと思っています。

大切なことは、何かを産み出したことではなく、産み出すための仕組みや組織文化を備えていること。常に新しい視点で挑戦を繰り返す、イノベーションを起こす。6年目を迎えたせんだい・みやぎNPOセンターの次の一手に注目しています！

部会報告

■セナードサロン■

第70回 12/13

第71回 12/15

第70回は「緊急集会！福祉の足を考える」でした。様々なジャンルの福祉団体の方をお招きし、車椅子の方や寝たきりの方などが移動する時に必要となる「移送サービス」について、現状と課題をお話いただきました。まだまだ供給が不足している現実の中で、移送サービスを整備していくことは、基本的な人間の権利である「移動の権利」を保障していくことに繋がります。従来の縦割り発想を変え、分野を越えた横の連携を図りながら、地域毎に生活に根ざした移送サービスを確立していく必要があるという認識を持つことができました。

第71回、今年2回目のアウトドア・セナードサロン「おいしい作業所味わい隊」では、角田にある社会福祉法人「虹の園」を訪問。ここでは障害を持った方たちが、地域社会で暮らすために、陶芸や園芸、紙漉きなど様々な作業をしています。その作業の一つが、今回訪問した「ぱびハウス」というピザの店の運営です。実際に接客やピザづくりを通してより作業が向上したのと、地域の人たちが気軽に施設に出入りできるようになり、障害に対する理解と地域とのつながりが深まったとのこと。ぱびハウスの雰囲気とピザのおいしさに参加者全員「大満足！」でした。

文責：中務恵美、田中聡子

●次回

セナード大交流会

1月23日(木) 19時~21時

仙台市市民活動サポートセンター
セミナーホールにて

1品もしくは飲み物をお持ちください。

皆さんでワイワイやりましょう。

■PONPO-NET■

第16回 8/23

12月18日は「安全な食べ物の提供とスローフード」をテーマに、ゲストを迎えてお話をうかがいました。

名取の農家で、さまざまな環境NPOにも参加している三浦隆弘さんからは、宮城の名物といわれている牛タンやすんだもちの原材料は果たして宮城のものか？という問いかけから、スローフードのお話をさせていただきました。生産者と消費者の間には非営利性が必要で、間でコーディネートするNPOが必要だというお話がありました。

みやぎ生協の笹由紀子さんからは、食の安全をめぐる歴史とみやぎ生協の取り組みをお話いただきました。ここ10年は食の課題は多岐にわたっているそうです。みやぎ生協では安全な商品を開発するだけでなく、あわせて勉強会などの啓発活動も同時に行っているとのこと。

今回は、私たちの生活に一番身近な「食」を考えるきっかけになりました。普段の食生活の見なおしだけでなく、食物ができる畑・田んぼ・川・海の影響は？自然環境に影響している私たちのライフスタイルは？子どもたちへの影響は？...「食」からさまざまな課題へつながってきました。

次回は今年度の振り返りと来年度に向けての話し合いを行います。

文責：中津涼子

●次回

2月12日(水)

会場：東北NSソリューションズ(株) 会議室

会議室提供：東北NSソリューションズ(株)

なお、12月より会社所在地が旧電力ビルに変更になりました。詳しくは当センターにお問い合わせください。

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.4

せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長 紅邑 晶子

ランチタイムに初めて入った店でのこと。店員が注文を取りに来て、頼んだ料理が運ばれてきましたが、フォークとナイフがありません。しばしテーブルの近くを見まわすと小さな籠の中にナプキンに包んだ状態で置いてあり、どうやら客は勝手にそれを使って食事をするというこのようです。程なくして、隣の男性が声を上げました。「店員さん、僕はこの料理をどうやって食べたらいいんですか、ナイフもフォークもないままで!」。慌てて店員が、彼の近くの籠の中にあると伝えました。このようなお店では多くのお客様はわたしのようこの店のルールを自発的に発見する可能性が高いかもしれません。けれども、全てのお客様がそうではない可能性がある限り、料理を運んだ際に「ナイフとフォークはこちらの籠の中にございます」のたった一言を申し浴えるだけで全てのお客様が気持ち良く食事できるはずで

その様子を見ていて、わたしたちの日常の中に

もこういうことがあるなあと思いました。たとえば、定例のイベントや会議のときに、初めて参加する人がいる場合があります。進行役は、初めての人の紹介はしても、他のメンバーの紹介をするのを結構忘れがちです。

また、議事を進める際も、前回からの継続審議をする際に、初めての人に簡単な概略の説明をせずに進行したり、前回の会議資料を渡さずに進行してしまう事があります。こんな時、初めての人にこそ、また久しぶりに会議やイベントに出席した人にこそ、対等な条件を保証してあげる心遣いが、円滑な会議やイベントを成功させるコツだと思います。

NPOの活動者は、ボランティアで参加することがほとんど。それぞれの大切な時間をNPO活動に使いたいと思って参加してくれたそれぞれの気持ちを大切にするために、初めての参加者にやさしい環境づくりのことをいつも忘れないようにしたいと思います。

例えば、日本のよき伝統を生かして造り酒屋の変革に奮闘するアメリカ人女性、通産省のエリートコースからベンチャー企業に転職した人、アルバイトから社長になった人、先祖から受け継いだ老舗企業を甦らせた人、半身不随でありながら15歳で起業した人など、様々なタイプの企業家のストーリーと言葉が集められている。自分のロールモデルとなる事例が見つかりそうである。

また、これらのドリーマーの言動や最近の知識経営論などから、著者は自己イノベーションの11か条として、①常に当事者意識を持つ、②小さな変化を起し続ける、③質の高い体験をする、④プロジェクトマネジメント力をつける、⑤プレゼン・スキルと英語力を身につける、⑥セオリーを知る、⑦小さなアンテナと大きなアンテナを立てる、⑧グローバルな視点をもつ、⑨自分なりのサイクルをもつ、⑩自分のことを自分以上に考えてくれる人はいない。だから自分で考える、⑪自分のアンカーを忘れないこと、を提案している。

読み進めていくうちに、世の中は不況と言うけれど、政府の景気対策ばかりに目がいって自分は何をやってきたのであるのか?と反省させられた。「よし自分もやるぞー!」と熱くなった情熱を忘れないように、本書を座右の書として読み返したい。

(松尾 敏江)

BOOK

ジャパニーズドリーマー
〜自己イノベーションのすすめ〜
米倉誠一郎著 P.H.P市民新書 760円(税別)

活動報告

事務局活動報告 (11/17~12/17)

■自主事業関連

- ・事業・運営会議 (第50回: 11/19 第51回: 12/2 第52回: 12/16)
- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (11/20・12/4・12/11)
- ・サポート資源提供システム日本たばこ産業物品提供内覧会 (11/26)
- ・センター会議 (11/27)
- ・事務局ミーティング (11/29・12/13)
- ・事業企画戦略会議 (第9回: 12/12)
- ・理事会 (第42回: 12/17)
- ・市民ライター&市民デザイナー編集会議 (11/25 加藤・紅邑・門間・葛西)
- ・NPOへの人材サポートシステムの開発 ワーキング (11/28・12/10 紅邑・遠藤・眞壁)
- ・サポート資源提供システム運営委員会 (12/4・10)
- ・宮城県議会議員との意見交換会 (12/6 紅邑・高田)
- ・セナードサロン「おいしい作業所 味わい隊!」 (12/15 遠藤・田中・中務)

■NPO/企業関連

- ・スタッフ・理事研修/主催: (特) グループゆう (11/17 加藤)
- ・ファシリテーター研修/主催: 日本財団 (11/18 加藤)
- ・認定NPO法人制度改正決起集会/主催: NPO/NGO に関する税・法人制度改革連絡会 (11/18 紅邑)
- ・国会議員会館訪問 (11/19 紅邑)
- ・リエゾン活動研究セミナー/主催: 日本工業大学リエゾン活動研究会 (11/20 紅邑)
- ・第2回巡回<気仙沼編>第3回巡回<古川編>/主催: みやぎNPO支援センターネットワーク (11/22・23・12/7・8 加藤・紅邑・青木・工藤)
- ・NPO公開コンペ2002/仙台青葉ライオンズクラブ (11/24 紅邑・高田)
- ・「市民参加のワークショップの技法」/主催: 土地改良事業団体連合会 (11/28 加藤)
- ・「新しい市民社会づくりとパートナーシップの形成」/主催: (財) 東北開発研究センター (12/6 加藤)
- ・「企業とNPOの連携による地域社会の活性化」/主

- 催: 日本経済団体連合会 (12/11 加藤)
- ・NPO支援センター強化プログラム研修/主催: 日本財団 (12/13・14・15 紅邑・門間)
- ・全国ボランティアコーディネーター研究集会2003実行委員会 (12/14 青木)
- ・「NPO講座100時間・Part4 NPOのマネジメント」/主催: 那覇NPO活動支援センター (12/14・15 加藤)

■自治体関連

- ・「住民協働ワークショップ」/ (財) ふくしま自治研修センター (11/20・12/3 加藤)
- ・クリーン仙台推進員グループ研修/仙台市環境局 (11/21 加藤)
- ・大河原おだづもっこ文化祭NPO基礎研修会/主催: 宮城県 (11/26 加藤)
- ・都心居住研究会/仙台都市総合研究所 (11/27 紅邑)
- ・仙台市都市計画審議会/主催: 仙台市都市整備局 (11/29 紅邑)
- ・「住民参加による快適なまちづくりの実現について」/中央地区町会連合会 (12/4 紅邑)
- ・みやぎNPOプラザ運営協議会 (12/5 加藤)
- ・宮城県図書館協議会 (12/5 紅邑)
- ・市民プロデューサー養成講座/主催: 宮城県環境生活部青少年課 (12/7 紅邑・田中)
- ・「市民活動に関する学習会」/主催: 清瀬市 (12/8 紅邑)
- ・アクティブシニア講習会/主催: 宮城県 (12/9 加藤・紅邑)
- ・仙台都市総合研究機構 地域コミュニティ研究会 (11/18、12/5、12/19 遠藤)

■相談、ヒアリング関連

- ・経営相談 (12/5 加藤・青木)
- ・社の伝言板ゆるるNPO法人設立総会 (11/23 紅邑)
- ・ヒアリング: リソースセンター (11/25)
- ・ヒアリング: 那覇NPO活動支援センター (11/28)
- ・しあわせ会福祉作業所開設記念祝賀会 (11/28)
- ・相談: 東日本カウンセリングセンター (12/5)

サポート・ご協力 ありがとうございます (敬称略)

■平成14年度

●正会員 (10件)

岡本あき子、白石・みやぎ環境を考える会、片桐和紀、(特) 起業支援ネット、女性のための離婚ホットライン、八木充幸、新川達郎、川村志厚 (3口)、青木ユカリ

●準会員 (1件)

阿首恵

■ボランティアスタッフ (五十音順、敬称略) 葛西淳子、須藤達也、細野泰志、門間由記子

■企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、東北NSソリューションズ(PONPO-NETの会議室提供)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)、ベネッセコーポレーション東北支社 (会議室提供)

せんだい・みやぎNPOセンター主催の催事・イベント

●サポート資源提供システム

オフィス什器・備品提供 内覧会開催

日時：1月21日(火) 受付13:00~14:00

提供：日本たばこ産業(株) (事前申込みが必要)

会場：仙台市宮城野区東仙台

情報ライブラリーへの登録が必要になります。事務局までお問い合わせ下さい。

●共感するパンフレット公開コンペ

日時：1月24日(金) 17:30開場~21:00

会場：エル・パーク仙台6階スタジオホール

入場無料

市民ライターと市民デザイナーが仙台市内13のNPOの広報ツールづくりを行いました。その成果をご覧ください。

●NPO経営相談

日時：2月14日 13:00~17:00

3月3日 13:00~17:00

(お申し込みは1時間単位になります)

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

アドバイザー：加藤哲夫

相談料：会員2000円、非会員2500円 (1時間)

5周年記念誌 好評発売中!!

1000円(税込)

せんだい・みやぎNPOセンターの仕事
NPOサポート・SENDAIモデル

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
tel 022-264-1281 fax 022-264-1209
E-mail minmin@minmin.org
http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらへどうぞ。

郵便振替口座 02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんみん編集後記

■年末年始、イラクのこと、北朝鮮のことが報道されている。そしてわたしは、空襲の恐怖を、飢えを、寒さに震える暮らしを知らない。9・11以降、こういう事がとても気になる。こういう時代に、NPO・NGOが果たす役割とは…。

2003年は、あの鉄腕アトムが生まれた年でもある。(紅邑) ■帰省して久しぶりに会った友人と話して気づいたのは、より自然にNPOという言葉が使われるようになったこと。良いことだ。でもその分中間支援組織の力がより厳しく試されます。今年は気の抜けない1年になりそうです。(工藤) ■毎年、みんみんのお年玉付録づくりには時間がかかります。今年は事務所の近くの銭湯で疲れを癒しながら作りました。そんな中、会員さんから「今年はいつ発送するの?」とうれしい催促! 皆さんからの読んだ感想をお待ちしています。2003年も何とぞよろしくお願い致します。(遠藤)